

2010 パチンコ維新サンプル版

パチンコ・スロットの大当たりは自力ではない！

### 3章 大当たり抽選（乱数判定）は自力ではない

#### 乱数判定の鍵はホールコンピューターが握る

2章で述べたように、外部入力端子とホールコンピューターが接続される限り、この章で後述する、今は無き名機アレジンやエキサイトのグループ判定方式と同様に、ホールコンピューターがグループ判定を行い、大当たりグループに判定されたグループの電圧を 100 パーセント上げることにより、当たり番の台だけを順次大当たり乱数にあてはめると云う事実は、トランス単位で形成されるグループの存在と、さらにはこのグループに対し、法則的な判定時期(G&AP 打法)が組み込まれているという事実が物語っている。

当たり乱数に当てはめるのは自力抽選ではなく、ホールコンピューターであるという事実は、入門編の「G&A P 打法」の核心である

- ① どのような状況で、いつグループ判定されるのか
- ② どのような状況で、いつ移動判定されるのか
- ③ 連ちゃん中の次の当たり判定は、いつどのような状況で判定されるのか

という、肝心要の判定機能が法則化されていることを解析実証したことにより、大当たりの100%が自力抽選ではなく、ホールコンピューターが仕掛け、作り出していると結論づけることができます。

グループ全体のロムの周期が平均的に良い状況の台が多ければ或いはシマ設定が良ければ、グループ判定の回数が多く、そして判定されている時間も1時間或いは2時間等と長く、そのグループ内では頻繁に当たりが発生し、同時期に2台或いは3台に当たりが発生している状況も多く見られ、グループ内の多くの台に移動します。

グループ内の移動が少なく、判定されている時間が短いグループは、回収期に突入しているグループです。

いつ行っても、どのグループも1台から2台にしか移動しない。

また各グループのエース台の当たり回数が15回以内のホールは、元々の設定が一般ホールより低く、出す気の無いホールです。

グループ内の移動が頻繁で、各グループのエース台の当たり回数が25回以上のホールで、いかにエース又は準エース台を確保するかが重要です。その店のグループ構成(5章参照)を知る事が最優先ですが、上記

を基準に店を選択することが、攻略法より何より、最も重要なポイントです。さらには無制限、持ち玉移動自由、等価交換等、ひとつでも条件の良いホールで打ってください。

パチンコ関連誌等は、ホールコンピューターを抜きにした状況での、乱数判定の解説をしています。

ホールコンピューター抜きでの乱数判定の解説としては正論であろうが、ホールコンピューター抜きの解説は、現在のパチンコでの本来の姿ではなく、最も重要なグループの存在やグループ判定機能を取り上げない限り、偽りの解説であると云われても仕方ない。

この判定時期を完全解析した入門編「TRUTH ホールシステム各論、G&AP 打法&当たり番確認打法」の DVD&解説冊子付に掲載する「G&AP 打法」を知れば、全機種に対し攻略がスムーズとなり万全ですが、とりあえず本書の内容、まずはトランス単位のグループの存在とその構成を頭にたたき込み、できるだけ条件の良いホールに出かけて下さい。

読者がホールで、トランス単位で形成されるグループ内の大当たりの移動状況を確認することにより、本書が大当たりそのものの動きをいか

に的確に解析し、パチンコ業界が隠し続けるグループの存在や大当たり判定機能を暴露しているかを理解していただけるはずです。

### 今は無き名機アレジンからの逆算理論

本書の逆算理論を知っていると知らないとでは、幼稚園児と大学教授ほどの差が生じます。

一般のパチンコファンの70パーセントは、パチンコ業界の仕掛けどおり、毎日、毎日、何の疑問も持たずにサンド（玉貸し器）に現金を入れ続け一喜一憂を繰り返しています。

残りの30パーセントのパチンコファンは、偶然の積み重ねから、はっきりとは解らないが、何らかの規則的なものを感じているはずです。

筆者も始めはこの30パーセント組でした。

筆者が逆算理論に目覚めたのは一昔前の平和の名機「アレジン」と「エキサイト」が同居したシマでした。

超爆裂機アレジンやエキサイト、アレンジマンはメーカー側が唯一、グループ判定方式であると公表していました。

そこで、「グループとはなんだろう」と考えてみました。

## 2010 パチンコ維新 第3章

始めは、乱数判定のメカニズムの中でのグループであり、表面化しているものではないと考えていましたが、いつも通う店の片側1列がアレジン20台で、片側1列がエキサイト、20台という組合せの40台のシマでのことですが、

筆者がアレジンで大負けをしたある日、友人のプレイを観戦しながら、明日の狙い台をチェックするため、そのシマ全体を眺めていた時、筆者はまず、メーカーの云うグループの意味がケツ番（台番号の下一桁）ではないかというヒントを見つけることに成功しました。

何番台が当たっているかを見ていると、大当たりしている5台の内、アレジン側の2台と、エキサイト側の1台がケツ番2の台で、他の2台はアレジンのケツ番7とエキサイトのケツ番7の台でした。

機種が異なることから偶然であろうと思いつつもさらに眺めていると、エキサイトのケツ番7番が終了した約2分後に友人の打っていたアレジンのケツ番7に大当たりが発生しました。

すかさず、さっきまで当たっていたアレジンのケツ番7の台を見ると、大当たりランプが消えていて席を立とうとしているところでした。

眺め初めてから友人の台に大当たりが発生した時点では、大当たりした台は機種こそ異なるがケツ番2番が3台と、ケツ番7番が3台という結果でした。

その日は、「偶然かな」くらいにしか考えなかったのですが、翌日からケツ番の動きを観察しはじめると、ものの見事に同ケツ番の1台が終了する殆ど同時に又は数分の時間をおいて、同じケツ番に大当たりが移動することを発見しました。

同じメーカーとはいえ、機種が異なっても殆どの場合が計ったように大当たり終了直後に規則的に移動する事実を確認することに成功し、グループの何たるかを知ったことから攻略に目覚めたという次第です。

アレジンを打つファンの中には、ケツ番で当たりが動くことに気づいている人もいましたが、さすがの彼らも異なる機種と同グループであることまでは考えられなかったようである。

その後、さらなる観察により

①グループ判定時には、そのシマの70パーセント以上の台に鳴き（アレジンやエキサイトのリーチはピーと鳴く）が集中すること。

このことに関しては当時少数の人が連鎖反応と云っていましたが、解析を進めるうちに、規則的な判定時期の存在を見出しました。

もっともこの法則を完全解析するのに、その複雑さから1年余りを要しましたが、その甲斐があり自他共に史上最高峰と云われ続けるG&AP打法が誕生したわけです。

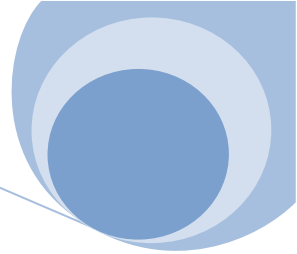
②ダブル、トリプルの鳴きで（一般機でのリーチの集中やスーパーリーチが発生する状態）大当たりしない時は、同時期に同グループの他台に大当たりが発生すること。

今でいえば、熱いスーパーリーチが外れると、同時期に同グループ内に大当たりが発生する。これは原則ですから頭に入れておいてください。

③急に回らなくなった時に、同グループの他台に大当たりが発生したり、他台に当たってしまうと、うそのように回り出すこと。

④同グループの1台が多連ちゃんした後は、グループ判定されている範囲が少なくなり、移動しても多連ちゃんが望めないことが多いこと。

⑤勢いの無いグループ、いわゆるシマの設定或いはグループ全体のROM周期の状態が悪いと、グループ判定されている時間が短く移動も少な



いこと。

(極端な場合は、単発1台でグループ判定が終了することもあります)

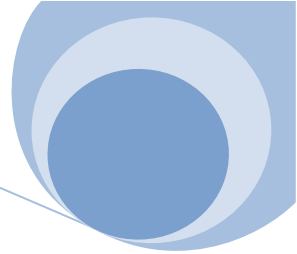
⑥空き台に当たり番が移動すると、その空き台を大当たりさせないと移動しづらいこと。

(打ち手が少ない時間帯は空き台に当たり番が居座るため移動率が低下する)

さらに大きな収穫は、グループ判定方式はアレジンやエキサイトだけではなく、パチスロをも含む全機種であるということを解明したことであり、新台入れ替えが行われても、異なるメーカーの機種であっても、台を据え替えるだけで配線までは変えない、即ちグループは変わらないということであった。

そしてこれらの方法は、日本中のパチンコホールが同一機能であることを知ることができたことである。

さらに、更に大きな収穫は「G&A P打法」という途方もない一定の判定法則を解析したことであった。



肝心要

◆確かに入賞ごとに抽選はしているが、すべてホールコンピューターが書き換えている。

◆乱数判定は自力ではない！ホールコンピューターが当たり乱数にあてはめる。ホールコンピューターがOKを出したグループにだけ、大当たりが発生する。

◆自台だけに夢中になるな。

常にグループ内を観察し、隠された秘密を暴け。